



軽防協ニュース速報

2014年第4四半期(10月－12月)の伝染病発生状況

(International Collating Centre からの情報)

2015年3月配信

オーストラリアからレポートは、1 四半期遅れて配信されることに注意されたい。以下に、オーストラリアの 2014 年第 3 四半期のレポートを記載する。その後、その他の国の 2014 年第 4 四半期のレポートを通常の形式で記載する。

オーストラリアの 2014 年第 3 四半期の報告

Animal Health Australia (AHA)

Animal Health Surveillance Quarterly (AHSQ) により編集

(<http://www.animalhealthaustralia.com.au/elibrary>)

州および準州の報告

オーストラリアでは、動物の疾病管理に関しては、州と準州がそれらの領域内で責任を負っている。国内動物衛生プログラムは動物衛生委員会との協議を通じて推進され、オーストラリア動物衛生局 (AHA) によって管理されている。

クイーンズランド州

(クイーンズランド農林水産省、グレッグ・ウィリアムソンによる報告)

ヘンドラウイルス

当該四半期中に、グラッドストーン州議会の管轄地域内のある農場で、1 例のヘンドラウイルス (HeV) 感染が確認された。2014 年 7 月中旬に、ワクチン接種をしていない 11 歳の牧場使役馬が、2 日間にわたって食欲廃絶し、元気消沈となった。第 3 病日の午後には、この馬は横臥状態となり起立不能となった。この馬はその夜に死亡した。死体の獣医学的検査により、両側性で「ゴルフボール大」の眼窩周囲浮腫と、中等度の粘張性鼻漏を認めた。HeV は血液と、口腔、鼻腔および直腸の各スワブを検体とした PCR 検査で検出された。

感染の確認された当該農場は隔離され、感染馬に曝露した可能性のある他の 9 頭の馬について監視と検査が実施された。3 回の PCR 検査および血清学的検査によって、さらなる感

染の根拠が無いことを確認した後、2014年8月中旬に当該農場の隔離は解除された。

この四半期中に、クイーンズランド州バイオセキュリティ科学研究所(Queensland's Biosecurity Science laboratory)に対して179頭のヘンドラウイルス感染症検査依頼があった。また州間移動および海外移動の前、種付場への移動前、あるいは疾病伝播リスクの高い獣医学的処置に先立ち、临床上健康な馬に対してヘンドラウイルス陰性証明を行うために、さらに25頭健康診断依頼があった。上記の1症例を除き、その他全てのヘンドラウイルス検査は陰性であった。

馬のHeV感染は、職場の衛生と安全、公衆衛生とバイオセキュリティ上のリスクに重大な影響を与えている。馬獣医師は、ヒトと動物の健康リスクが実用上可能な限り最小限となることを確実にするために、そのHeVリスク管理システムを常に精査するべきである。ワクチン接種は、馬におけるHeV感染のリスクを減少させる、唯一かつ最も効果的な方法である。馬主は、自身の所有馬のワクチン接種について、担当獣医師と話し合うことが求められる。馬のHeV予防のさらなる情報は、www.biosecurity.qld.gov.auで参照可能である。

ニューサウスウェールズ州

報告事項なし。

ヴィクトリア州

報告事項なし。

タスマニア州

報告事項なし。

南オーストラリア州

報告事項なし。

西オーストラリア州

報告事項なし。

ノーザンテリトリー（北部準州）

報告事項なし。

2014年第4四半期の報告

アルゼンチン

報告事項なし。

オーストラリア

冒頭で述べたように、2014年の第3四半期の報告は上述の通りである。

カナダ

馬伝染性貧血 (EIA)

2014年第4四半期中に、サスカチュワン州において1症例が確認されており、確定診断は血清学的検査で実施されている。

チリ

報告未着。

デンマーク

報告事項無し。

フランス

(フランスの馬感染症疫学監視ネットワークの RESPE から提供された情報)

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による呼吸器疾患

2014年10月5日に、セヌ＝エ＝マルヌ県において1件の EHV-1 呼吸器疾患が確認された。陽性馬は発熱を呈した。

10月6日に、マンシェ県のフレンチ・トロッター種において、2症例の EHV-1 呼吸器疾患が確認された。

カルヴァドス県では3件の個別の EHV-1 発生が確認され、2件は10月5日に、1件は10月17日の発生である。最初に確認された発生事例では、陽性馬は6歳のフレンチ・トロッター種であり、プアパフォーマンスと呼吸困難を認めた。

10月17日に、オート＝ピレネー県で1件の EHV-1 呼吸器症状の発生が確認された。

上記の陽性診断は全て、鼻咽頭スワブの PCR 検査によって診断されている。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

11件の EHV-4 呼吸器疾患発生が確認されている。発生場所は、カルヴァドス県、ドルドーニュ県、オート＝ガロンヌ県、オルヌ県およびピレネー＝アトランティック県である。感染馬は発熱、鼻漏、発咳および衰弱といったいくつかの症状を呈した。全て、鼻咽頭スワブの PCR 検査によって陽性と診断されている。

馬伝染性貧血 (EIA)

2014年10月2日にガール県において、1件の無症状馬の EIA 症例が確認されており、この馬は6歳のフリージアン種で、血清学的に確定診断された。

馬インフルエンザ (EI)

2014年10月27日に、アン県の乗馬学校において1件の馬インフルエンザ発生が確認された。2頭のワクチン未接種のポニーが感染し、発咳を呈した。

10月31日に、セヌ＝エ＝マルヌ県の乗馬学校に繋養されている交雑種において、1件のEI発生が確認された。発熱、鼻漏および発咳といった臨床症状が認められた。

11月17日に、ジロンデ県で2頭のポニーが感染した発生が1件確認された。さらに11月26日に1頭確認され、発咳、発熱および鼻漏の臨床症状が認められた。

ピレネー＝アトランティック県のトレーニングセンターで、2頭のサラブレッド種の感染が確認され、発咳と発熱を認めた。最初の症例は12月24日、2例目は12月31日に報告された。

全てのEI陽性診断は、鼻咽頭スワブのPCR検査によって実施された。

レプトスピラ症による流産

12月8日にカルヴァドス県において、サラブレッド種の牝馬1例のレプトスピラ症による流産が確認された。尿嚢絨毛膜を検体としたPCR検査によって確定診断が行われている。

ピロプラズマ病

フランスでは依然、風土病である。

腺疫

カルヴァドス県、シェール県、ドルドーニュ県、ドローム県、ガール県、エロー県、イル＝エ＝ヴィレーヌ県、アンドル＝エ＝ロワール県、イゼール県、ジュラ県、ロワール＝アトランティック県、マンシュ県、オワーズ県、ピレネー＝アトランティック県、セヌ＝マリティーム県、イヴリーヌ県、ヴォージュ県およびヴァル＝ド＝マルヌ県において、23件の発生が報告されている。感染馬の品種には、フレンチ・サドルブレッド種(2頭)、サラブレッド種(2頭)、ポニー(2頭)、ペルシュロン種(1頭)、ルジタニアン種(1頭)およびアラブ種(1頭)といったものが挙げられる。感染馬は、発熱、鼻漏、発咳、リンパ節腫脹、脱力や食欲不振といった、様々な臨床症状を呈した。確定診断は、鼻咽頭スワブまたは膿性鼻漏を材料として、PCR検査あるいは細菌学的検査によって行われた。

ドイツ

Dr. Boese 研究所有限会社 (HBLB の CEMO 認定研究所) による検査結果

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による呼吸器疾患

第4四半期中に、2頭のEHV-1呼吸器疾患が2戸の別々の牧場で確認された。さらに2戸の別の牧場において2頭のEHV-1感染が確認されたが、臨床的な詳細情報は不明である。確定診断はPCR検査により行われた。

ウマヘルペスウイルス-4 (EHV-4) による呼吸器疾患

第4四半期中に、2戸の別々の牧場において、2頭のEHV-4呼吸器疾患が確認された。確定診断は鼻咽頭スワブ材料のPCR検査により行われた。

馬ウイルス性動脈炎 (EVA)

2歳の種牡馬のEVA感染が報告されており、確定診断は精液サンプルのウイルス分離とPCR検査で行われている。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

3戸の別々の牧場で、3頭の腺疫感染が報告されている。発熱および鼻漏といった臨床症状を認めた。確定診断は、鼻咽頭スワブおよび下顎リンパ節から採取した膿検体の、細菌培養とPCR検査で実施された。

香港

報告事項なし。

アイルランド (共和国)

サルモネラ症

第4四半期中に、3例のサルモネラ感染が報告されており、1頭はレンスター地方で、2頭はマンスター地方での発生である。マンスター地方の2例はロバであった。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

第4四半期中に14頭が報告されており、8頭はレンスター地方で、6頭はマンスター地方での発生である。

イタリア

報告事項なし。

日本

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

2014年10月29日から12月15日の間に、5頭のEHV-1感染が報告されている。感染馬はそれぞれ5戸の異なる牧場のワクチン接種済みサラブレッドであった。確定診断は、北海道胆振家畜衛生保健所および北海道日高家畜衛生保健所によるウイルス分離で実施された。

ゲタウイルス感染症

9月15日から10月25日の間に、茨城県のJRA美浦トレーニング・センターにおいて、

33 頭のサラブレッドの感染発生が報告されている。確定診断は JRA 競走馬総合研究所栃木支所で実施され、血液材料の血清学的検査および RT-PCR 法によって診断されている。

破傷風

本四半期中に、2 戸の異なる牧場で 2 例の破傷風が報告されている。10 月 18 日に報告された最初の症例は、ワクチン非接種のサラブレッド種で、安楽死されている。11 月 20 日に報告された 2 例目は、ワクチン非接種のポニーで、その後死亡した。確定診断は、北海道胆振家畜衛生保健所がその臨床症状に基づいて行った。

ニュージーランド

報告事項なし。

シンガポール

馬パラチフス (*Salmonella Abortusequi*)

2014 年 10 月 13 日から限局的な発生があり、1 牧場で 5 頭の子サラブレッド牡馬が感染した。当該馬は、EU から巡業してきたサーカス団に所属しており、東南アジアへの巡業に先立って検査された。確定診断はシンガポール農産物・家畜庁の研究所における試験管凝集反応によって実施され、1 週間後の再検査でも同じく陽性であることが確認されている。

南アフリカ共和国

アフリカ馬疫 (AHS)

南アフリカの AHS 常在地域のうち以下に挙げる州において、2014 年最終四半期中に AHS 発生があった；ハウテン州、北西州、クワズール・ナタール州および東ケープ州

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1) による流産

10 月の西ケープ州の 1 牧場での牝馬の流産が、プレトリア大学獣医遺伝学研究所で、EHV-1 が原因であると定量 PCR 法により確認された。

韓国

報告未着。

スペイン

報告未着。

スウェーデン

報告未着。

スイス

ボレリア症

2014年11月21日に、貧血の臨床症状を呈した馬のボレリア症が1例報告されている。確定診断は血清学的検査で行われ、同馬はオキシテトラサイクリンによる治療に良好に反応した。

ウマヘルペスウイルス-1 (EHV-1)

発熱の臨床症状を呈した EHV-1 感染馬が1例、ウイルス分離による診断後、2014年12月26日に報告されている。

馬ウイルス性動脈炎

12月3日に1例のEVA感染が報告されている。本症例に関して、これ以上の情報は不明である。

サルモネラ症 (*S. Enteritidis*)

11月6日に、サルモネラ感染馬1例が報告されており、同馬は発熱症状を呈した。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

10月に、1件の牧場で100頭中50頭が感染し、細菌学的検査によって腺疫と診断された事例が報告されている。さらに12月に、1頭の感染が報告され、細菌学的検査によって確定診断されている。

トルコ

報告事項なし。

アラブ首長国連邦

馬ピロプラズマ病 (*Theileria equi*、*Babesia caballi*)

アラブ首長国連邦では、非サラブレッド種における馬ピロプラズマ病は風土病であり、定期的に症例報告がある。ドバイ中央獣医学研究所 (CVRL) において血清学的検査および病原体分離によって診断が実施されている。

イギリス

イギリスの症例や発生報告は、第3四半期以降の中間臨時報告としてすでに発表していることに注意されたい。

※ 第4四半期中の報告疾患は以下の通り

- EHV-1 による呼吸器疾患

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_october14.html

<http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report14-november14.html>

<http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report14-december4.html>

- EHV-4 による呼吸器疾患

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_september14.html

<http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report14-november14.html>

<http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report14-december6.html>

- 馬インフルエンザ

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report4_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report5_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report6_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report7_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report8_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report9_september14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report2_october14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report3_october14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report7_october14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report9_october14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report10_october14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report12_october14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report13_october14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report1_november14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report2_november14.html

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report4_november14.html

<http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report9-november14.html>

<http://www.aht.org.uk/cms-display/interim-report14-november14.html>

- 非定型ミオパチー

http://www.aht.org.uk/icc/Interim_Report11_october14.html

アメリカ合衆国

クロストリジウム腸炎

Clostridium perfringens A 型による 6 例のクロストリジウム腸炎が子馬で確認されている。

東部馬脊髄脳炎 (EEE)

2014年第4四半期中に、25頭の馬におけるEEE感染が確認されている。年間の総計は16の州で139頭であり、最も多いのはフロリダ州(58例)での発生で、ルイジアナ州、ニューヨーク州およびノースカロライナ州(各12例)の発生数がこれに続いた。

ウマヘルペスウイルス(EHV)による疾患

血清学的に、馬の集団におけるEHV-1およびEHV-4感染が確認されており、多くは呼吸器病で、特に若馬に多い。EHV-1による流産は2例が確認されており、いずれもサラブレッドの繁殖牝馬である。

アイダホ州の1牧場で2頭の馬のEHV-1による神経疾患が、1件報告されている。両馬は安楽死となった。

複数のEHV-2およびEHV-5感染例が、ケンタッキー州やテキサス州をはじめとした多くの州で確認されている。

馬伝染性貧血 (EIA)

カリフォルニア州のクォーターホース競走馬で、1例のEIA感染が報告されている。

馬インフルエンザ (EI)

USAはEIの常在国である。EI発生はフロリダ州(1件)、ケンタッキー州(2件)、オレゴン州(1件)およびワシントン州(1件)から報告されている。

馬増殖性腸症 (*Lawsonia intracellularis*)

第4四半期中に、*Lawsonia intracellularis*感染症例が、主にサラブレッドの子馬で報告されている。

ノカルジア性胎盤炎と流産

ケンタッキー州で2例の流産が報告され、1例は*Amycolatopsis*属菌に起因し、もう1例は*Crosiella*属菌の感染に起因する。

ロドコッカス症 (*Rhodococcus equi*)

USAにおいて、*Rhodococcus equi*感染症は風土病であり、本病は実際の発生よりも非常に少数しか報告されていない。第4四半期中には、13例の本病発生が確認されている。

腺疫 (*Streptococcus equi*)

米国の馬群において、腺疫は依然として風土病である。本病は7つの州の22牧場から報告されている。今回確定診断された計41症例も、本病の実際の発生頻度よりも過少に計上されている。

水胞性口炎 (VS)

VS の発生は 2014 年第 4 四半期中も続いている。全て、ニュージャージー血清型のウイルスによる発生である。さらにコロラド州の 60 牧場、テキサス州の 7 牧場そしてネブラスカ州の 1 牧場の、計 68 牧場において本病が発生している。これにより、本年のウイルス陽性牧場の総計は 433 牧場となり、このうち 370 牧場がコロラド州、62 牧場がテキサス州、そして 1 牧場がネブラスカ州である。感染牧場のある郡は、コロラド州で 17 郡、テキサス州で 13 郡、そしてネブラスカ州で 1 郡である。上記のうち、馬のみを飼養している牧場は 53 箇所、牛のみを飼養している牧場は 27 箇所、そして馬と牛の両方を飼養しているのは 3 箇所である。本報告日現在、この 3 つの州における感染は、馬 584 頭と牛 60 頭が確認されている。

ウエストナイル脳炎 (WNE)

2014 年第 4 四半期にはさらに 74 頭の馬の WNE が確認され、年間の総計は 140 頭となり、34 州から報告された。最多報告の州はテキサス州 (22 例) で、以下オクラホマ州とカリフォルニア州 (各 14 例)、およびミズーリ州 (10 例) であった。

ベネズエラ

報告未着。

以上